

梅の魅力

梅は古木ほど味わいがあります。それは自然に帰らんとする寸前の姿で、来年はもう朽ち果ててしまうからかもしれない、はかなさがあります。だが梅の木は意外と老いて増々元気で花を沢山つけます。そこに魅力を感じます。初めて、この公園にきて、隅に一本の梅の木を見つけ感動したことがあります。以前に通った梅林になかった自然の中に育った梅を見て、過去の思い出を払拭する機会を与えてくれました。だがしかし、数年後、その梅は残念ながら根元から切られてしまいました。この梅の良さを理解し得なかった人に、恨めしく思いました。

梅はバラ科で4～5 cm位の鋭い棘があります。また、品種改良を繰り返された梅は木肌がやさしくなります。それに対して改良されていない梅は木肌が荒々しく野生的です。また、過保護に育てると花芽は少なく、むしろ、いじめたほうが種を残そうとして、花芽を沢山つけます。例えば、夏場、水分が少ないと葉が巻きます。そんな年は花芽を沢山つけます。また、若い梅は時には2 m近く伸びます。そのような梅は周りの土を踏み固めたりします。ただし、古木は1年に3 cm位しか成長しないものもあります。従って、周りを囲い、踏み固められないようにします。剪定は花後すぐに3～5芽残して剪定し、できるかぎり枝伸びしないようにします。来年の花は成長した小枝につきます。徒長枝は花芽がほとんどつきませんので整枝します。ただし、将来を見据えて残したい場合は枝を太くさせます。花は3月に近づくとつれ豪華ではなやかな品種に代わり咲きます。梅らしい花はやはり寒い時期に咲く品種でつぼみの凜とした輝きと清楚な花だと思えます。

